

自己学習力を身に付け、学び続ける子どもの育成 ～算数科における効果的な間接指導の在り方～ 美唄市立峰延小学校 学級数4 (校長 山下 正志)

I 実践テーマの趣旨

本校では、平成28年度から、児童が主体的に学び続けることができる「自己学習力」を育成することをねらいとし、算数科を中心に効果的な間接指導の充実を図る研修を推進してきた。

II 実践の概要

1 板書の統一

児童の思考の過程を分かりやすくするために、「課題」や「まとめ」の表記等、板書の仕方を全校で統一した。このことにより、1単位時間の学習の流れがノートに分かりやすく整理され、児童が効果的に学習を振り返ることができるようになった。さらに、学年が変わっても、児童は安心して授業に臨むことができる。



【第6学年の板書】

「課題」「児童の考え」「ステップカード」「まとめ」の表記を統一し、学習内容を分かりやすくまとめている。

2 学習過程の工夫

本校では、指導方法の工夫改善を図るため、授業の流れを「①つかむ」「②考える」「③まとめる」「④深める」の4つの段階に整理し、上の学年から間接指導「④深める」に入ることを基本とした学習展開としている。また、学習内容によって同時間接指導を位置付け、「小わり」をしながら学習を進めることにより、つまづいている児童へ個別指導を行ったり、児童の様子を見取ったりすることができる。

A学年	④深める【間接】	①つかむ【直接】	②考える【間接】	③まとめる【直接】
	習熟応用	問題提示・課題把握	自力解決	集団解決
B学年	①つかむ【直接】	②考える【間接】	③まとめる【直接】	④深める【間接】
	問題提示・課題把握	自力解決	集団解決	習熟応用

【1単位時間の基本的な学習の流れ】

3 ヒントカード「ステップカード」の活用

間接指導において、児童が主体的に学習を進めるため、課題を児童に把握させ、自力解決するための一つの方法として、児童の思考を助けるヒントカード「ステップカード」を作成し、集団解決やまとめにおいて活用できるよう工夫した。



【ヒントカードを活用している児童】

4 振り返り活動

自己学習力を身に付け、主体的に学び続ける態度を育成することを目指し、今年度から「振り返り活動」に力を入れて取り組んでいる。まとめの段階で振り返る視点を提示することにより、児童は「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」など、学習の成果を実感することができるようになり、今後の自己の学習に対して意欲を高めることができた。

III 取組の成果と課題

- 学習過程に意図的に同時間接指導を位置付けたり、「ステップカード」を活用させたりすることにより、間接指導の充実が図られ、児童が主体的に学習を進められるようになった。
- 「ステップカード」は、児童の思考を助けるが、児童の多様な考えを狭めてしまうこともあることから、ヒントの内容や活用させるタイミング等、より効果的な活用方法を検討する必要がある。